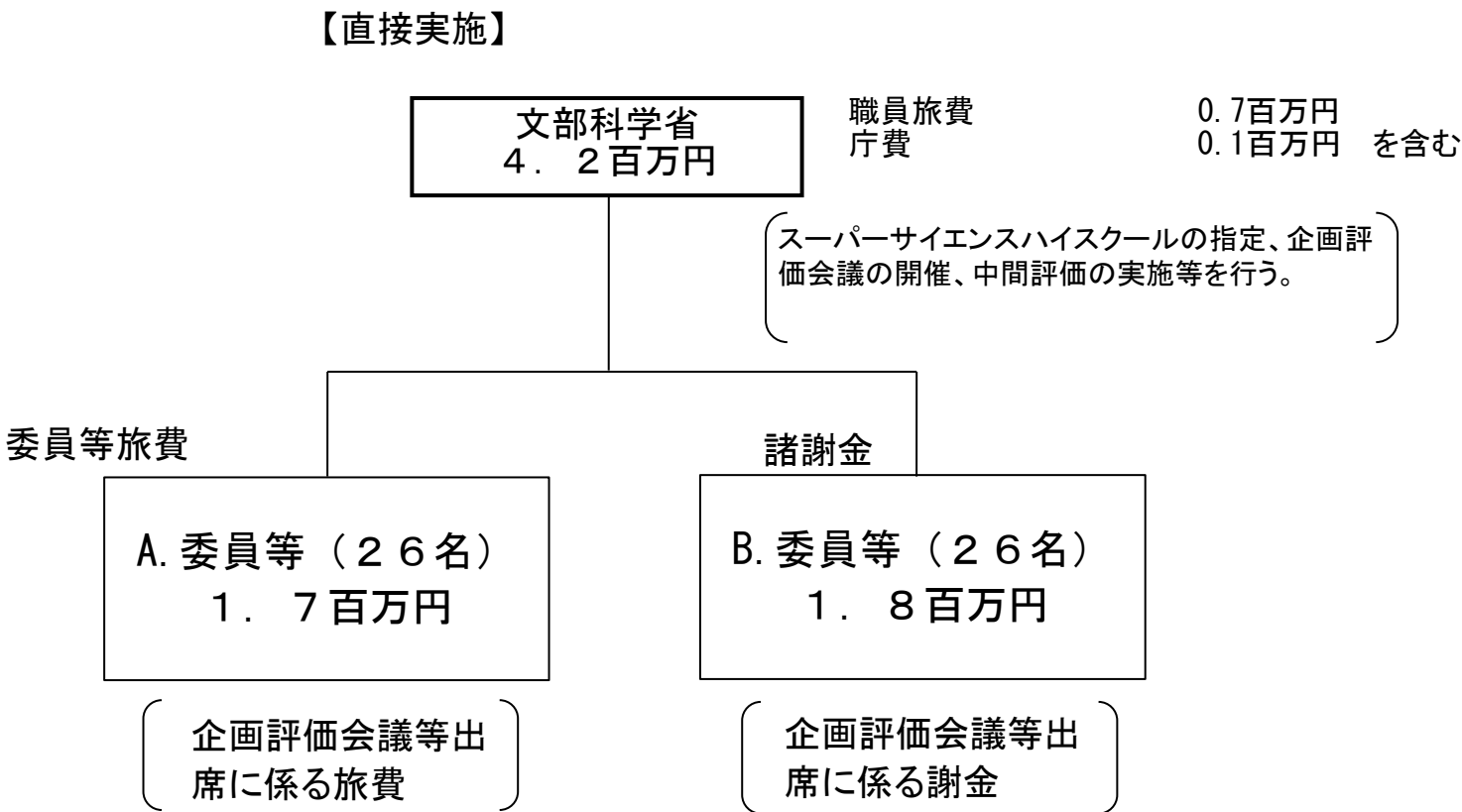


	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	スーパーサイエンスハイスクールにかかる事務費			担当部局庁	初等中等教育局		作成責任者
事業開始年度	平成14年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	教育課程課		教育課程課長 常盤木 祐一
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	第4期教育振興基本計画(令和5年6月16日 閣議決定)、第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日 閣議決定)、統合イノベーション戦略2021(令和3年6月18日 閣議決定)、教育再生実行会議 第三次提言(平成25年5月28日)、教育再生実行会議 第四次提言(平成25年10月31日)、教育再生実行会議 第七次提言(平成27年5月14日)、教育再生実行会議 第九次提言(平成28年5月20日)、教育再生実行会議 第十一次提言(令和元年5月17日)		
政策	8 科学技術・イノベーションを担う人材力の強化			主要経費	科学技術振興費		
施策	8-1 科学技術イノベーションを担う人材力の強化						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-03.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	文部科学省は、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な科学技術・理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」として指定している。本事務費により、優れた素質を持つ生徒等の能力伸長や学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践、課題研究の推進等を支援する事業の円滑かつ効果的な実施に必要な審査・評価等を行う。						
現状・課題 (5行程度以内)	将来にわたり、日本が科学技術分野で世界を牽引するためには、イノベーションの創出を担う、科学技術関係人材の育成を中等教育段階から体系的に実施することが不可欠であるが、そうした取組の推進を本事務費により支えている。						
事業概要 (5行程度以内)	文部科学省においてスーパーサイエンスハイスクールの指定、企画評価会議の開催、中間評価の実施等を行う。						
事業概要URL	-						
実施方法	直接実施						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	5	5	5	7	7
		補正予算(B)	-	-	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
		予備費等(E)	-	-	-	-	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	5	5	5	7	7	
	執行額(G)		2	3	4		
	執行率(%) =(G)/(F)		40%	60%	80%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		40%	60%	80%		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)		研究振興費		※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。		
		(目)	委員等旅費	3			
		(目)	諸謝金	3			
		(目)	職員旅費	1			
		(目)	庁費	0			
			その他	0			
	計(A)		7	7			

活動内容① (アクティビティ)		文部科学省においてスーパーサイエンスハイスクールの指定、企画評価会議の開催、中間評価の実施等を行う。									
↓											
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		SSH事業の円滑かつ効果的な実施	SSH企画評価会議等開催数	活動実績	回	25	28	27	－	－	
				当初見込み	回	19	25	28	28	28	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	SSH事業が円滑かつ効果的に実施されているかを測るため、SSH企画評価会議等の開催数を活動指標に設定し、事業の成果を把握するため、SSH指定校における定量的な指標を設定する。									
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度		
		SSH事業により、科学技術関係人材の育成を中等教育段階から体系的に実施する。	SSH指定校生徒へのアンケート調査で、科学技術に関する学習の意欲が向上したとの肯定的な回答の割合 (分母:SSH指定校生徒の内、科学技術に関する学習の意欲がもとも高かった生徒を除き当該設問に回答をした数。 分子:上記の内、SSH参加により科学技術に関する学習意欲が向上したと肯定的に回答した数)	成果実績	%	62	58	58	－		
				目標値	%	65	65	65	65		
				達成度	%	95.4	89.2	89.2	－		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		スーパーサイエンスハイスクール意識調査報告書(国立研究開発法人 科学技術振興機構)									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
		－									
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
		成果を測るうえでは設定しているアウトカムで十分であり、他に適切な指標もないため。									

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」において
ブロックごとに最大の金
額が支出されている者につ
いて記載する。費目と
使途の双方で実情が分
かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
委員等旅費	企画評価会議等出席に係る旅費	0.1	諸謝金	企画評価会議等出席に係る謝金	0.1
計		0.1	計		0.1

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

